

町章が決まったとき ～マイクロ化済公文書から～

市史編さん室では、市史『現代資料編』に掲載する資料として、市役所で過去に作成された公文書の調査を行っています。永年保存の公文書は保管スペースの問題から、原本ではなく、マイクロフィルム化して保存されています。今回は、そうした公文書の中から一部を紹介します。

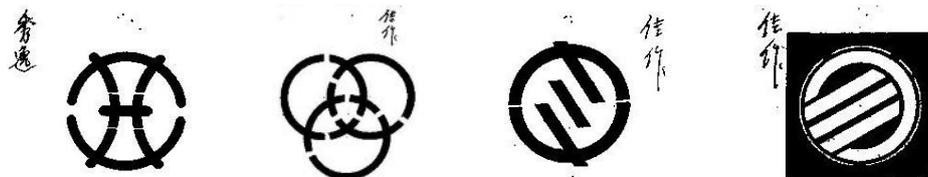
1949（昭和24）年・・・

町章制定に関する一連の書類は『市（町）章書類』として、「一般募集要領」「審査委員会委嘱について」「審査結果」「入選に係わる賞金送付について」の項目が付き、マイクロフィルム化されています。

当時相模原町では、町のマークを決めることになり、一般公募を行いました。132点の応募があり選考の結果、採用1点、秀逸作2点、佳作5点が決まりました。後、1954（昭和29）年の市制施行後は、「市章」として引き継がれました。今ではすっかりおなじみのデザインですが、他にも力作ぞろいだったことがわかります。こうした公文書を調査することで、当時の行政の動きがよくわかります。



マイクロフィルムに記録されていた町章関係の公文書。採用作品（現在の市章）及び解説が書かれている。右下隅の番号は、撮影の時に付けたコマ番号。



秀逸作（最左）と佳作の一部（マイクロ化済公文書から抜粋）

なお受賞者や賞金の詳細等、町章決定については『広報さがみはら縮刷版1号～200号』所収の「政時報第八号（24.11.14）」に、関係記事が掲載されています。

マイクロフィルムとは・・・ 原情報を肉眼で読めないほど極度に縮小して作成された微小画像写真で、マイクロリーダーという機械に装着して拡大・複写を行います。



マイクロフィルム

形態は数種類あるが、これは16mmロールフィルムと呼ばれるもの。



マイクロリーダー

右下に見える丸いものが、装着されたフィルム。

編集委員会を開催

平成 18 年度の第 1 回相模原市市史編集委員会が、8 月 12 日に開催されました。会議に先立ち、2 年間の委嘱期間の終了に伴い委員の委嘱を行いました。就任した委員は、石井篁（文化遺産部会）・岩野秀俊（自然部会）・小川直之（民俗部会）・加藤修（考古部会）・神崎彰利（文化遺産部会、委員長）・金原左門（近現代部会、副委員長）・栗田尚弥（近現代部会）・清水擴（文化遺産部会）・浜田弘明（近現代部会）・町田洋（自然部会）の各氏。8 月から新たに 2 年間の任期で、全員に再任をお願いしました。

引続いて行われた会議では、来年度に刊行を予定する「現代資料編」項目案の検討状況など、各専門部会からの報告や情報交換が行われました。



博物館小会議室にて

進む考古編資料化作業

2011(平成 23)年度に刊行を予定する考古編では、資料の所在確認を行うとともに、資料化作業を進めています。遺跡から出土した土器や石器などの遺物は、実測図作成や写真撮影、大きさや重さの測定、原材料の観察や分析など、必要に応じて記録をとっていきます。これが基礎資料となって、多くの人があるものを手にすることなく、研究・分析を行うことができます。

現在、1973(昭和 48)年に行われた勝坂遺跡第 1 次調査で出土した土器の実測作業を行っています。この調査は遺跡の保存を判断するため、緊急に実施されたものでした。こうした時間上の制約から十分な記録がとられていなかった遺物もあるため、改めて資料化作業を行っています。

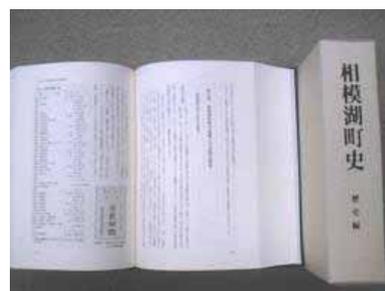
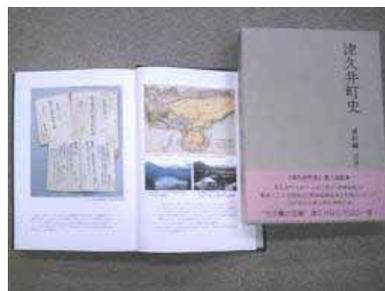


土器の前に、慎重な作業が続く

津久井町史・相模湖町史を販売中

市史編さん室と市立博物館、市役所・津久井総合事務所・相模湖総合事務所の各行政資料コーナーで、販売しています。

【津久井町史】	価格 (円)
津久井町の昆虫 I	1,700
津久井町史 資料編 近世 1	2,000
【相模湖町史】	
相模湖町史 歴史編	14,000



シリーズ 駅・いまむかし②

小田急線相模大野駅

小田急線の新宿—小田原間は1927（昭和2）年、江ノ島線は1929（昭和4）年に開通しました。しかし、当初この分岐点には駅がなく、信号所の扱いでした。

1938（昭和13）年、付近の軍施設の最寄り駅として「通信学校」の名称で開設、3年後に「相模大野」になりました。

上の写真は1975（昭和50）年8月に撮影された、駅北口の様子です。駅周辺では1972（昭和47）年から土地区画整理事業が始まっていました。1996（平成8）年には現在の駅ビルが完成、また1998（平成10）年の国民体育大会を契機として、特急ロマンスカーの停車駅になっています。

（参考：『小田急五十年史』（1980）小田急電鉄株式会社、
『ようこそ相模大野へ』（1997）相模原市都市整備部）



現在の駅の様子。バス乗り場は、ペデストリアンデッキの下にある。（2006（平成18）年8月）



浜田弘明氏撮影

年度	人
1953 (S28)	1,421
1955 (S30)	1,957
1960 (S35)	4,807
1965 (S40)	14,825
1969 (S44)	32,389
1975 (S50)	41,305
1980 (S55)	42,476
1985 (S60)	44,211
1990 (H2)	51,023
1995 (H7)	53,621
2000 (H12)	54,428

表：小田急線相模大野駅の
1日平均乗車人員の変遷

（相模原市史『現代図録編』所収「駅別1日平均乗車人員」から作成）

市史講演会を開催します

日時：平成18年11月25日（土曜日）

午後2時～4時（開場午後1時30分）

会場：相模原市立博物館 大会議室

（横浜線淵野辺駅下車徒歩20分／

路線バスもあります）

講師：栗田 尚弥さん（國學院大學講師）

内容：「キャンプ座間序章—占領軍と相模原—」

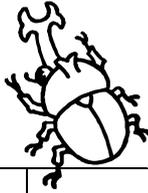
対象：15歳以上（中学生を除く）

受講料：無料

定員：200人（当日先着順）



1970（昭和45）年のキャンプ座間正門
（相模原市広報課所蔵）



編さん室の動き (7月～8月)

月	日	内 容
7	1	「市史編さんだより第31号」発行 民俗部会開催 近現代部会開催
	14	現代編資料調査 (県立公文書館、26日にも実施)
	18	市史の録音図書化検討について、相模原市録音奉仕会との打ち合わせ
	22	考古部会開催
	28	自然編資料調査 (市役所本庁舎・8月3日にも実施)
	随時	現代編マイクロ化済公文書の複写作業 (1ページに関連記事・8月にも随時)
	8	1
2		津久井町地域巡検 (津久井郷土資料館ほか)
3		現代編資料調査 (市内小中学校・4日と9日にも実施)
7		近現代部会打ち合わせ
10		神史協研修会に参加 (県立公文書館)
12		編集委員会開催 (2ページに関連記事)
17		民俗編市内巡検下見(相原方面・18日上鶴間、22日淵野辺方面にも実施)
31		自然部会合同調査及び部会開催



県立公文書館



以下の刊行物を販売しています。お求めは、市史編さん室・市立博物館・行政資料コーナーへどうぞ。なお、送料実費負担で配送の取扱いもいたします。

刊行物名	価格	大きさ・ページ数	刊行時期
相模原市史現代図録編	1,500円	A4判・296ページ	平成16年11月
相模原市史第1～7巻	1,900～4,500円	B5判・598～842ページ	昭和39～47年
相模原市史ノート創刊号	350円	A5判・112ページ	平成16年3月
相模原市史ノート第2号	700円	A5判・103ページ	平成17年3月
相模原市史ノート第3号	600円	A5判・102ページ	平成18年3月

「さがみはら市史編さんだより」第32号

発 行 2006(平成18)年9月1日

編 集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19 (市立博物館隣り)

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039

E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ : <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp> (相模原市トップページ)

(市のプロフィール⇒市史編さんについて、または観光・文化⇒市史編さん の順でご覧になれます。)